

うっしっしいー情報2021

9月市



豊岡農業改良普及センター

9月8日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が78万5千円、雌が76万5千円でした。

普及センター調べ（税込価格）
（雄を除くため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
赤佐	10	0.906	753,940	6	0.920	701,250	16	734,181
丹波篠山	1	1.164	717,200	2	0.865	639,650	3	665,500
丹波	19	0.956	758,132	20	0.824	666,710	39	711,249
朝来	13	0.973	749,946	3	0.869	733,700	16	746,900
播磨	20	0.941	765,435	19	0.859	703,942	39	735,477
美方郡	53	0.979	787,247	34	0.899	868,450	87	818,982
豊岡	14	1.005	795,693	10	0.859	745,910	24	774,950
養父	21	0.993	846,267	30	0.871	803,660	51	821,204
摂津・神戸	18	0.974	789,739	19	0.861	742,442	37	765,451
県北C	2	0.940	831,600	2	0.901	654,500	4	743,050
市場全体	171	0.971	784,988	145	0.870	764,887	316	775,765

9月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	忠味土井	9	0.968	780,633	3	0.858	947,833	12	822,433
2	芳悠土井	25	0.943	796,532	16	0.905	843,494	41	814,859
3	芳山土井	9	0.956	748,856	5	0.891	872,960	14	793,179
4	丸若土井	32	0.967	832,013	35	0.822	749,760	67	789,045
	総計	171	0.971	784,988	145	0.870	764,887	316	775,765
5	丸池土井	11	0.920	766,500	12	0.918	767,708	23	767,130
6	照和土井	38	0.992	767,047	29	0.879	753,690	67	761,266
7	照忠土井	10	0.923	745,690	15	0.862	750,200	25	748,396
8	丸春土井	5	0.977	804,760	9	0.882	714,389	14	746,664
9	宮菊城	13	1.088	805,454	10	0.871	665,280	23	744,509

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	忠味土井	B	A+	A	A	A+	A++
2	芳悠土井	A	B	B	B	B	A++
3	芳山土井	A+	A+	A++	C	A	A
4	丸若土井	B → A	A++	A++	A	A++	A++
5	丸池土井	C → D	A+++	D	B	A++	A+++ → A++
6	照和土井	A+	A+	C	B	A	A+
7	照忠土井	B	A++	A	A+	A++	A
8	丸春土井	B	A	B	B	A	A++
9	宮菊城	A	A+	A++	A	A+	A

北部農業技術センター提供 (育種価評価は令和03年8月現在)

ルーメンの働きについて

はじめに

ウシはヒトと違って4つの胃を持っていることは、よく知られていますね。その中でも反芻動物が持つルーメンの働きにより、ウシは自身が利用できない飼料中のセニをエネルギーやタンパク源として利用しています。今回は、みなさんが毎日与えているエサが、効率的に利用されるよう、あらためてルーメンの役割について確認してみましょう。

今月号は、ルーメンの役割について、次号では、ルーメンの機能を正常に保つ方法について考えていきます。

ルーメンの構造・機能

ルーメンと言えば、第1胃のことだと思ってしまうのではないのでしょうか？ルーメンは第一胃だけではなく、第一胃と第二胃で構成されています。第1胃は、容積が100Lにもなる巨大な臓器で、発酵タンクとしての役割を持っています。第一胃の構造は、内部表面に無数の絨毛が発達し、表面積を広くすることで、たくさんの微生物が住み着きやすくなっています。また第一胃内では、微生物による飼料の分解段階によりが階層構造を作っており上部は、ルーメン発酵で産出されたガスが充満した「ガス層」、中央は、大きな飼料片の固まりである「ルーメンマット」、一番下の層は、分解が進み細くなった飼料が堆積する「液層」となっています(図)。

ルーメン内では、摂取したエサがルーメンに生息する多数の微生物により発酵します。発酵により発生した酢酸などの揮発性脂肪酸はルーメン胃壁から吸収され、エネルギー源として利用されます。また増殖した微生物の一部は、第四胃で消化されタンパク源として利用されます。

第二胃は、第一胃と連動して、ルーメン内容物を攪拌する機能を持ち、発酵を促進しています。

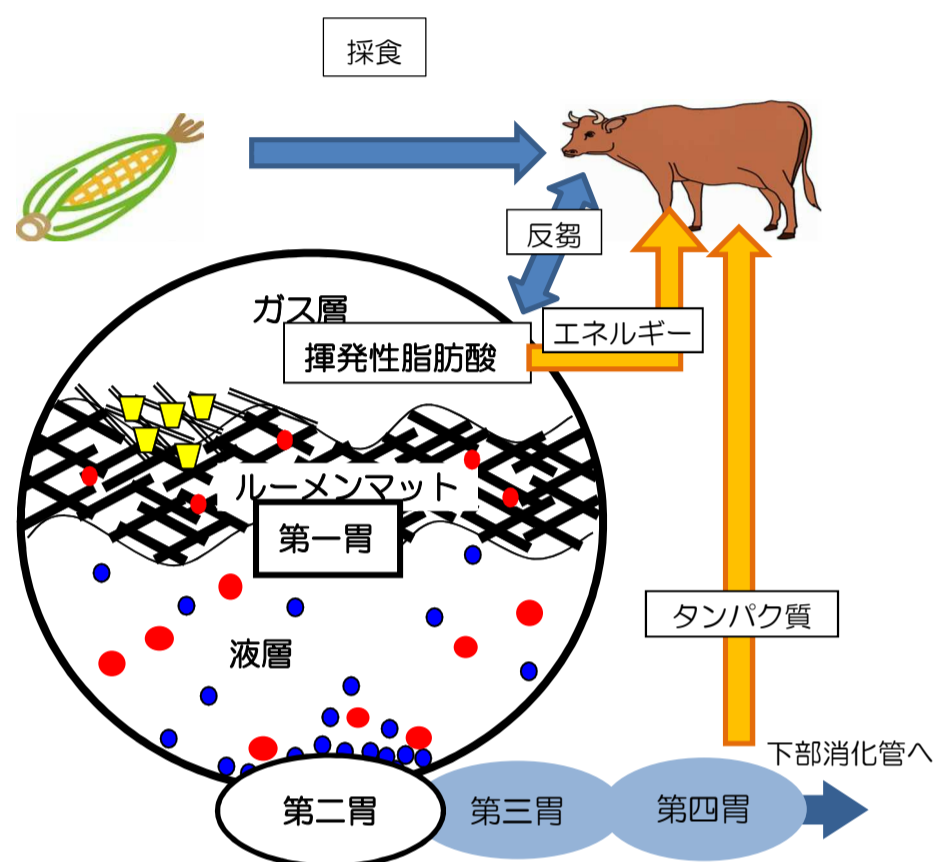


図. ルーメン内の構造と機能

微生物はウシの重要なタンパク源！！

ルーメン内の微生物の体を構成するタンパク質は、植物性のタンパク質に比べて、必須アミノ酸の含量が高く、ウシにとって非常に栄養価の高いタンパク源となっています。必須アミノ酸とは、動物が体内で作り出すことのできないアミノ酸で、このアミノ酸が不足するとウシにとって必要なタンパク質の合成ができなくなり、体の維持や、子牛生産などに支障を来します。ヒトでは食事から必須アミノ酸を摂取しなければなりません、ウシはルーメン内微生物から摂取することができます。そのため、ウシに十分なタンパク質を摂取させるためには、ルーメン内微生物を増殖させることが重要になります。

飼料はウシだけにあげているものではない！？

ルーメン内の微生物は、ウシが摂取した飼料を分解・増殖し、ウシは微生物が発生させる揮発性脂肪酸と微生物自身を栄養として摂取しています。つまり、ウシはルーメン内で微生物を飼っているのです！

毎日ウシに給与している飼料は、ウシがすべて直接栄養にしているのではなく、微生物を通して間接的に栄養を摂取しています。そのため、日々の飼料管理はルーメン内の環境について考える必要があります。微生物はルーメン内のpHや温度が変化すると、個体数が大きく変化します。また給与する飼料によって種類も変わります。pH、温度、飼料は微生物の環境要因です。この環境が急変すると微生物の数や種類が激減し、ウシは今まで充足していた栄養が摂取できなくなります。ルーメン内の環境を整え、微生物を健康に飼うことが、ウシの健康を保つことに繋がります。

今月号のポイント

- ウシが本来利用できない飼料中のセニをルーメンの機能によって利用することができます。
- ルーメン内の微生物は、飼料を分解・増殖することで、ウシへエネルギーとタンパク質を供給しています。
- 微生物のタンパク質は、ウシにとって栄養価の高いタンパク源です。
- ルーメン内環境を整えることで、微生物の健康が維持され、ウシの健康を保つことができます。